

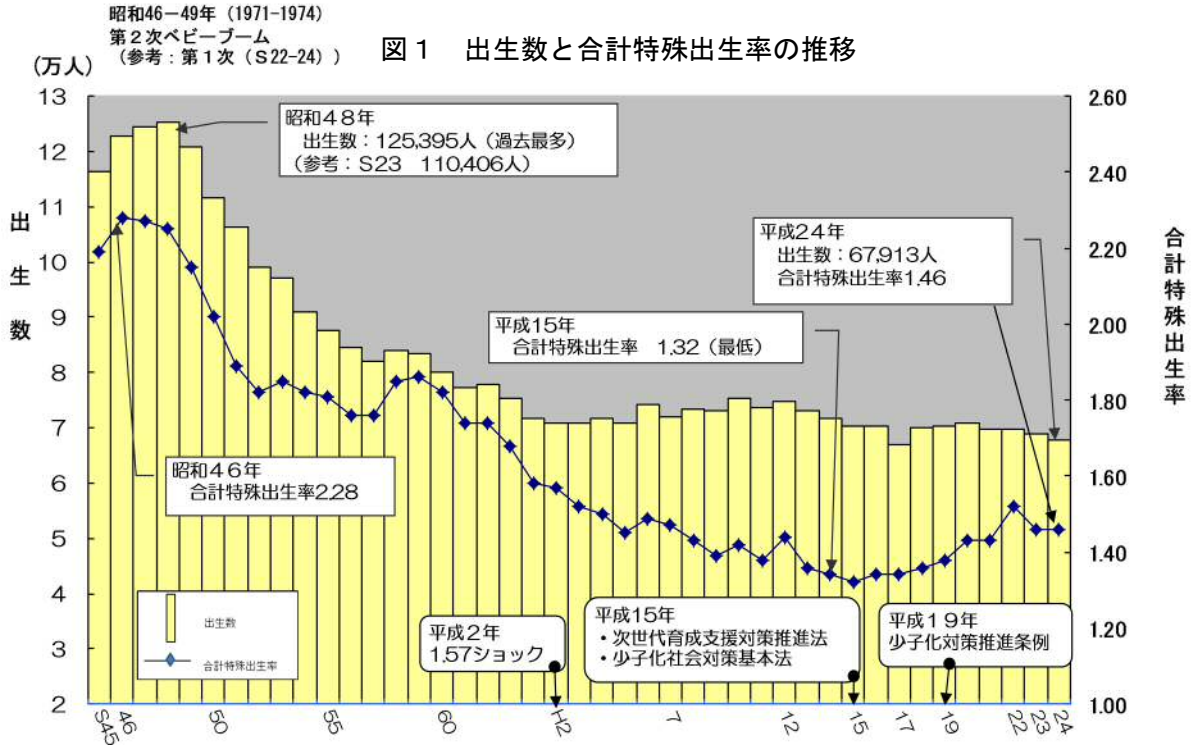
本県の少子化をめぐる現状

1 少子化

(出生数・合計特殊出生率)

本県の出生数は、平成元年から7万人前後で推移しており、平成24年は67,913人である。また、24年の合計特殊出生率は1.46(全国1.41)で、安定的に人口を維持できるといわれている2.07を大きく下回っており、依然として少子化傾向が続いている。

※合計特殊出生率とは、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

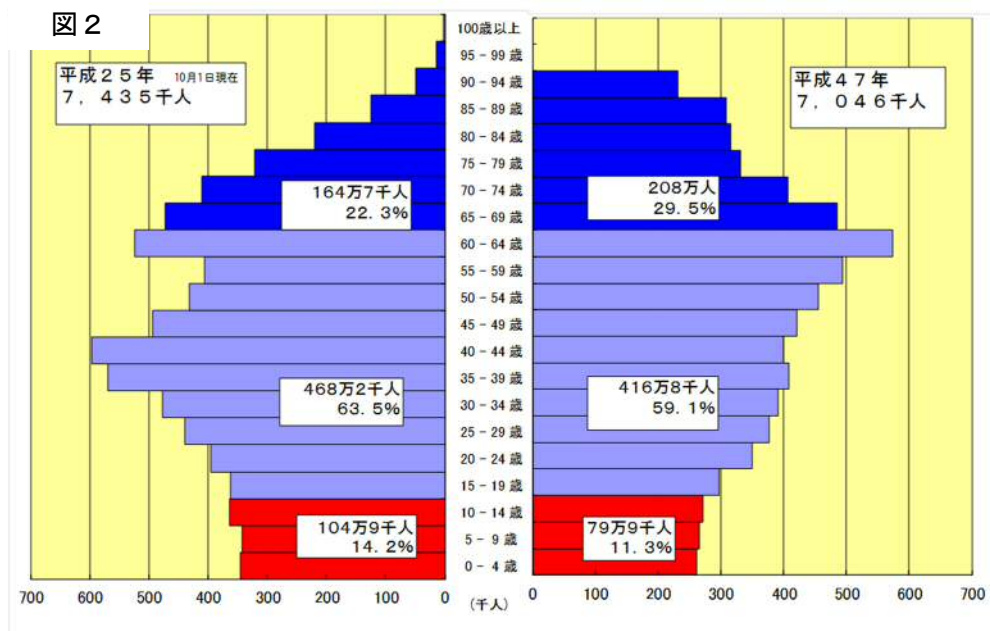


資料: 厚生労働省「人口動態統計」

愛知県健康福祉部「愛知県衛生年報」

(人口ピラミッド)

本県の平成47年の人口は、704.6万人、年少人口(0～14歳)は11.3%と予測され、今後も少子化が進行する見通しである。



資料: 愛知県県民生活部「あいちの人口」(平成25年10月1日現在)

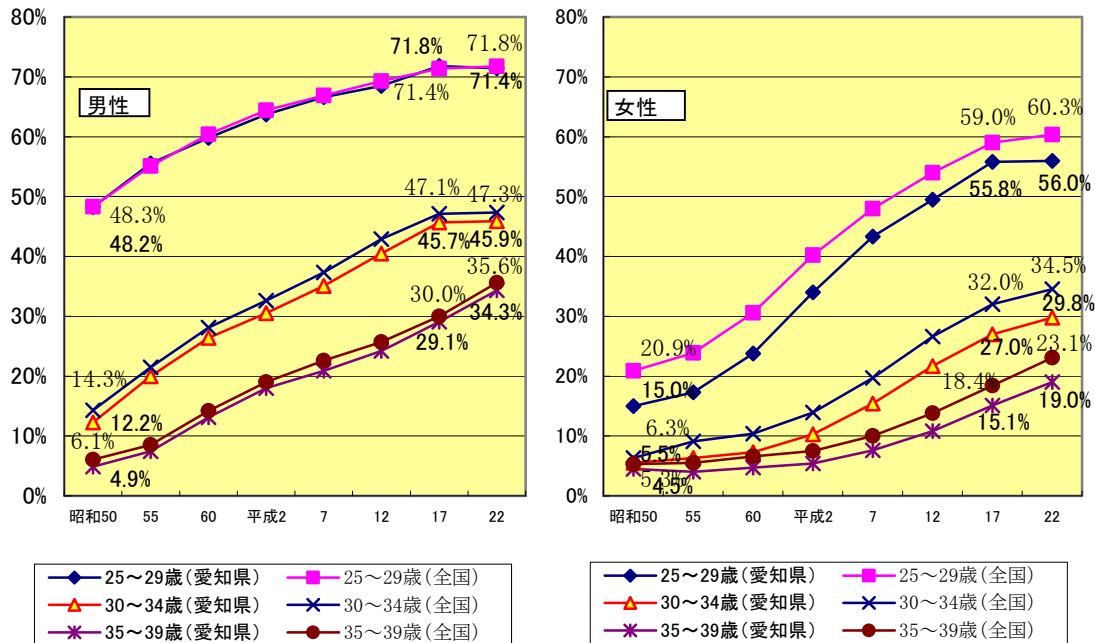
国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成25年3月推計)

2 未婚化・晩婚化の進行

(未婚化)

平成 22 年国勢調査によれば、本県の 30 歳代前半の男性の約半数、女性の約 3 人に 1 人、30 歳代後半の男性の約 3 人に 1 人、女性の約 5 人に 1 人は独身である。

図 3 男女別・年齢階級別未婚率(25～39 歳)の推移

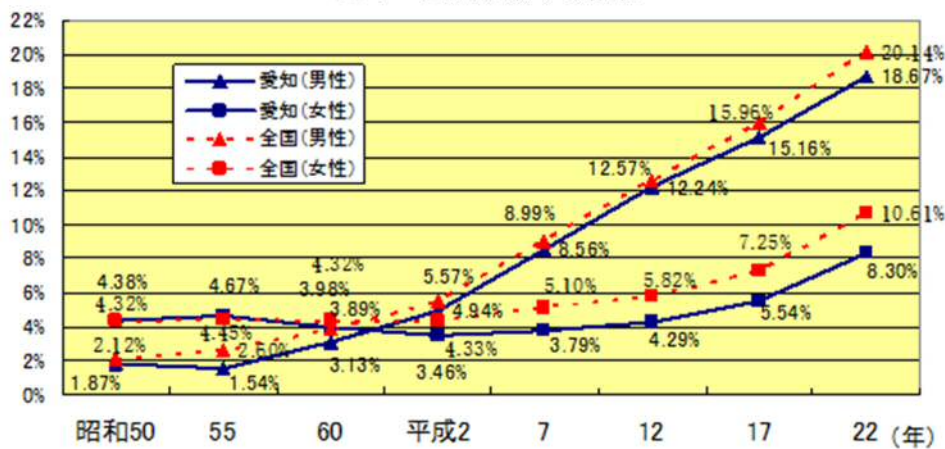


資料：総務省「国勢調査」

生涯未婚率は男性が 18.67%、女性が 8.30% となっており、昭和 50 年と比べると男性は約 10 倍と大幅に上昇し、女性も平成 12 年以降急進し約 2 倍になっている。

※生涯未婚率とは、45 歳～49 歳未婚率と 50 歳～54 歳未婚率の平均値で、50 歳時の未婚率を示す数値。

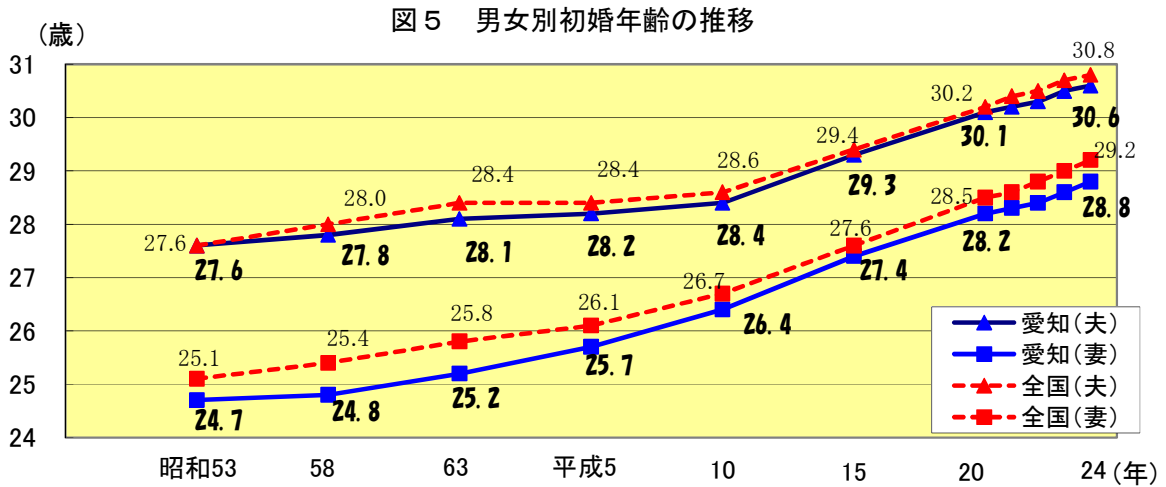
図 4 生涯未婚率の推移



資料：総務省「国勢調査」

(晩婚化)

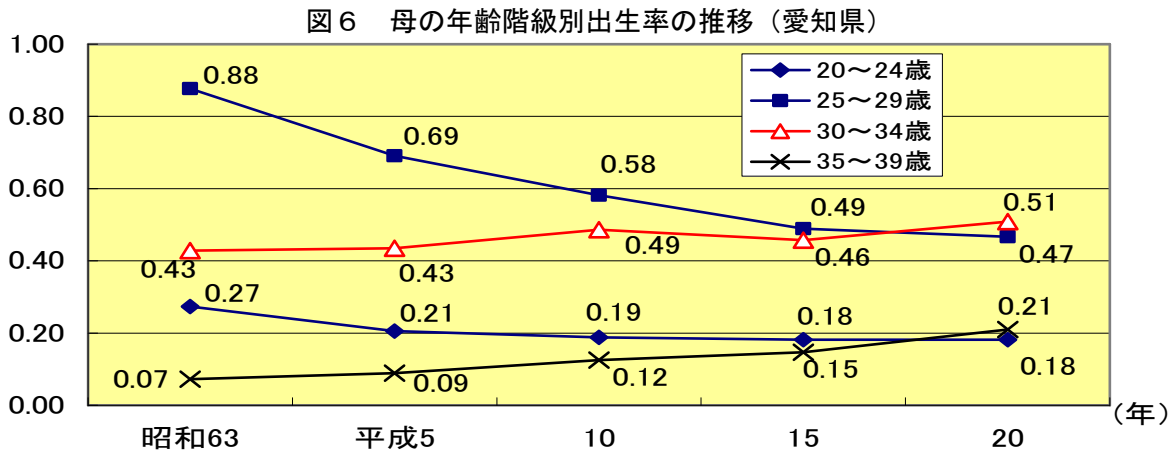
平均初婚年齢も長期的な上昇傾向にあり、平成 24 年には、夫 30.6 歳、妻 28.8 歳である。昭和 53 年と比較し、夫は 3.0 歳、妻は 4.1 歳高い。全国とほぼ同様の傾向がある。



3 晩産化

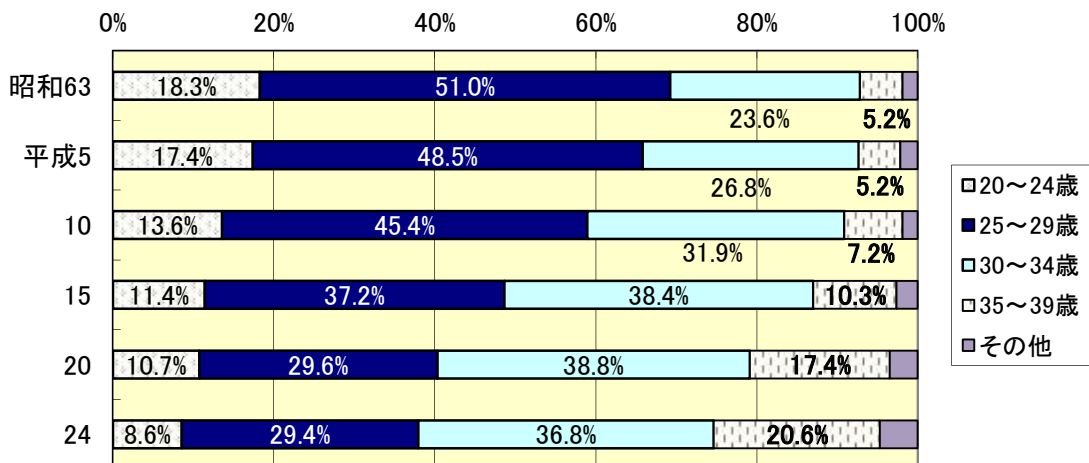
資料：厚生労働省「人口動態統計」

晩婚化の影響を受けて、晩産化が進行し、母の年齢階級別出生率の推移は、20 歳代後半の出生率が大きく低下している。出生時の母に占める 30 代後半の割合は、平成 20 年には 7 人に 1 人だったが、平成 24 年には 5 人に 1 人となっている。



資料：愛知県健康福祉部「愛知県衛生年報」

図 7 出生時の母の年齢階級別割合の推移

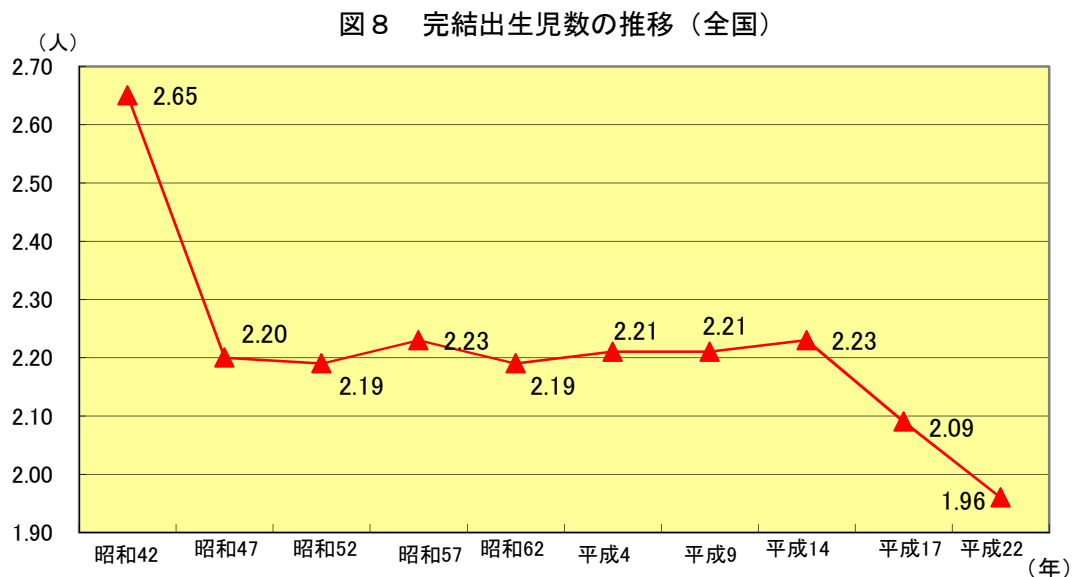


資料：愛知県健康福祉部「愛知県衛生年報」

4 夫婦の子ども数の減少

夫婦の完結出生児数は、これまで昭和 50 年以降 30 年間にわたって 2.2 人前後で安定していたが、近年減少し、直近の調査（平成 22 年）結果では 1.96 人とはじめて 2 人を下回った。

※完結出生児数とは、結婚持続期間 15 年から 19 年夫婦の平均出生子ども数のこと。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」

<まとめ>

未婚化、晩婚化傾向が顕著であり、
本県の少子化に歯止めがかかっていない。

引き続きライフステージに応じた
総合的な少子化対策に取り組んでいく。